

野生思考と近代思考 1

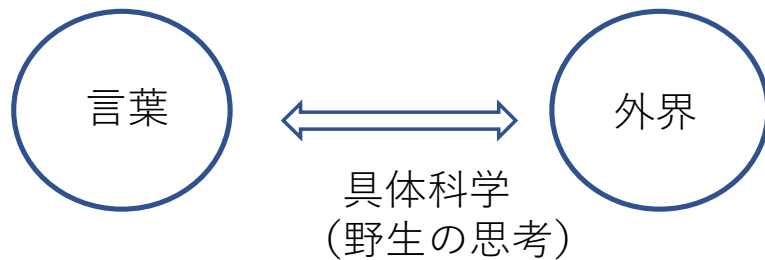
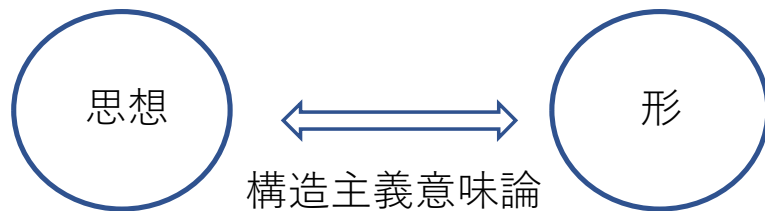
モノの敷延对本質への肉薄（「野生の思考」理解への一助）

	野生の思考 La Pensee Du Concret	近代思考 Pensees Modernes
要素	モノ形状 forme	思想concept 質essence
展開	言葉によるモノ世界の敷延	モノ世界の閉じこめ
用語	Analogie（類推） Forme（形） Morphologie（形態） Globalisation（敷延） Integration（取り込み） Assimilation（同一化） Inversement（逆立） Congruence（似通い） Identique（同一）	本書において用語の説明は少ない 天動説を廃し地動説に至った思考の流れに嚆矢が認められる 生物学においてはDNA構造の発見（1953年クリック等）までは形態が優先していた。形質人類学においてもしかり。 （本欄の記述は部族民通信による）
注	未開社会に特有な思考ではない モノ思想の敷延が神秘（magie）に向かう	

野生思考と近代思考 2

ヒトの思考 言語、外界認識、思想、形

le decoupage conceptuel varie avec chaque langue = 概念による分断は言語により変わる。
この句の正しい理解とは。



- ヒトは形あるモノへの思想を持つ。
- 思想が形を峻別する、故にイヌとブタを間違える事はない。
- 抽象的名詞において例、「自由」の思想はvolonte、行動はvertueと特定できる（ジッド狭き門から）
- 思想を持たないモノには無関心、認識しない。先住民が「植物」「動物」など大きな範囲の抽象語を持たないのは、必要がないからである。

- 言葉が外界(自然)の連続を分断(decoupage)する。
- 言葉とは思想、形は外界の言い換えでもある。
- 分断の様は言語により異なる。
- 「未開」民族も文明社会人も思想（言葉）に対する形(外界)の認識を同じく持つ。